

# 診断後から治療期における成人がん患者の情報ニーズに関する文献検討

永島 志<sup>1)</sup>, 川崎 優子<sup>2)</sup>

## 要 旨

### 【目的】

国内外の先行研究から、診断後から治療期にある結腸直腸がん、肺がん、胃がん、乳がん、前立腺がんの成人がん患者の情報ニーズの要点を整理し、今後の看護支援への示唆を得る。

### 【方法】

データベースは医学中央雑誌web版、CINAHL (Cumulative Index to Nursing and Allied Health Literature), MEDLINE Completeを用い、2012年から2022年10月までの10年間に指定した。「がん」AND「情報ニーズ」に、結腸直腸がんor肺がんor胃がんor乳がんor前立腺がんを追加して検索し、ハンドサーチと合わせて23文献を分析対象とした。

### 【結果】

乳がん患者を対象とした文献が最も多く、研究デザインは質的研究が主であった。診断後から治療期における成人がん患者の情報ニーズとして、14のサブカテゴリと、【疾患と治療の意味を理解できる情報】【疾患や治療による影響を予測できる情報】【現状や将来の生活をより良くする対処につながる情報】の3つのカテゴリーに分類された。

### 【結論】

診断後から治療期における成人がん患者は、個々の疾患や病期、治療、身体状況に加えて、価値観や生活上の習慣、仕事、家族・パートナーの状況に応じた情報ニーズを持つことが示された。これはその人らしさにも置き換えられ、看護師はがん患者のその人らしさに基づく、より詳細で個別的な情報ニーズを認識し、情報提供または適切な情報源につなぐ役割を果たす必要性が示唆された。また、国外研究が主であり、文化的背景や医療提供内容によって情報ニーズは異なる可能性が示唆された。

キーワード：情報ニーズ、がん患者、文献検討

---

1) 兵庫県立大学大学院看護学研究科 博士前期課程がん看護学専攻

2) 兵庫県立大学看護学部 治療看護学

## I. 諸 言

がん患者は、がんと診断されたこと、疾患自体、手術療法や薬物療法、放射線療法などの治療により、短期的、長期的な影響を受け、身体的、精神心理的、社会的に様々な課題を抱える (Anderson et al., 2021; Denlinger et al., 2009; El-Shami et al., 2015)。その中で、診断期、治療期には、がんや治療に伴う症状、生活への影響に対するセルフケアの獲得、コーピング、意思決定のため、自分自身に関連する様々な情報を求めること (橋本ら, 2018; Recio-Saucedo et al., 2018; 笹井ら, 2016; Spittler et al., 2012)、希望を見出すための肯定的な情報を探すことが報告されている (Germei et al., 2014)。情報ニーズを満たすことはセルフケア獲得や意思決定への重要な因子であることから (Magalhaes et al., 2020)、医療者はがん患者の情報ニーズを認識し、情報提供することが重要といえる。

新たながん治療の開発により治療の選択肢が増え、治療の特徴や有害事象、生活への影響、対処方法に関する情報が溢れている。また、現状の課題として、がん患者の情報ニーズと医療者が把握しているニーズにはズレがあること、がん患者は必要な情報の提供を受けている実感が少ないことが報告されている (片岡ら, 2019; Sakai et al., 2020)。多種多様な情報がある環境におかれる人々の情報処理過程は、自分自身にとって理解しやすい形に再構成して認知し、かつ感情状態に整合的な情報が選択的に処理されるという特徴をもつことが報告されている (多鹿ら, 1992)。そのため、精神心理的影響が予測される診断後から治療期において、がん患者の情報ニーズに合わせた情報提供は重要である。

近年がん患者の情報ニーズについて調査した先行研究は多いが、診断後から治療期に焦点を当てたもの、文献検討した研究は限られている (金正ら, 2021; Tariman et al., 2014)。また、入院日数の短縮や外来治療の増加から、短い時間でがん患者の情報ニーズを認識し、支援することが求められる。診断や治療をどのように乗り越えることができたかは、その後のがんと向き合い方に影響するため (山内ら, 2014)、診断後から治療期の情報ニーズの要点を整理することは重要と考える。

本研究では、結腸直腸がん、肺がん、胃がん、乳が

ん、前立腺がんの患者を対象とする。わが国において罹患数が多いこと (国立研究開発法人国立がん研究センター, 2022年11月16日)、治療法が比較的多く治療選択において情報が必要となること、他のがん種と比べて5年生存率が高く経過が長いこと、情報が生活やその後の人生、Quality of life (以下QOL) に影響することが考えられ、情報ニーズを明らかにする意義が大きいと考える。

以上より、本研究では国内外の先行研究を対象に、診断後から治療期にある結腸直腸がん、肺がん、胃がん、乳がん、前立腺がんの成人がん患者の情報ニーズについて文献検討を行い、今後の看護支援への示唆を得ることとする。

## II. 研究の目的

国内外の先行研究から、診断後から治療期にある結腸直腸がん、肺がん、胃がん、乳がん、前立腺がんの成人がん患者の情報ニーズの要点を整理し、今後の看護支援への示唆を得る。

## III. 方 法

### 1. 用語の操作的定義

診断後から治療期にあるがん患者：がんと診断後から、手術療法や薬物療法、放射線療法など積極的治療を行っている時期にあるがん患者

情報ニーズ：自分の知識や経験では問題を処理できないと判断し、問題の処理、解決に役立つ情報を外部に求めようとする認識状態の中で意識的または無意識的に必要とする情報

### 2. 検索データベース

国内文献は医学中央雑誌web版、国外文献はCINAHL、MEDLINE Completeを用いて検索した。近年の情報ニーズの要点を整理するという目的で2012年から2022年10月までの10年間に発表された文献とした。

### 3. 検索キーワード

医学中央雑誌web版では、原著を指定、キーワードを

「がん」AND「情報ニーズ」と設定し、14件が検索された。CINAHL, MEDLINE Completeでは、抄録あり、査読ありを指定し、「cancer or neoplasms」AND「information needs」にがん種を追加して検索した。「colorectal cancer」147件、「lung cancer」120件、「gastric cancer」13件、「breast cancer」630件、「prostate cancer」183件が検索された。また、ハンドサーチで2件検索された。

#### 4. 分析対象文献の選定

適格基準は、①原著論文、②学会誌、③18歳以上のがん患者が対象、④がんの診断から治療期に関する事項が対象、⑤がん患者の情報ニーズの内容が記載、⑥結腸直腸がん、胃がん、肺がん、乳がん、前立腺がんの患者が対象であるものとした。検索された1109件のうち、重複文献289件を除いた820件の適格性を判定した。第1段階ではタイトル、抄録を確認して適格基準に沿ってスクリーニングを行い、第2段階として論文の内容を確認して適格基準に沿ってスクリーニングを行った(図1)。

#### 5. 分析方法

選定された文献から、以下の手順で分析を行った。

- 1) 文献毎に著者と出版年、国名、研究デザイン、対象者、治療状況、情報ニーズを抽出し表を作成した。
- 2) 情報ニーズの内容を分析し、類似性に沿ってサブカテゴリーに分類・命名し、さらにサブカテゴリーの類似性に沿ってカテゴリーに分類・命名した。

### IV. 結 果

文献23件を分析対象とした(表1)。

#### 1. 文献の概要

文献23件のうち、国内文献は1件であった。乳がん患者を対象とした文献が11件と最も多く、次いで結腸直腸がん患者4件、前立腺がん患者3件であり、胃がん患者は1件であった。肺がん患者のみを対象とした文献は選定されず、複数の臓器を対象とした文献は4件であった。

年数別の文献件数は、2012年2件、2014年4件、2015年3件、2017年1件、2018年4件、2019年1件、2020年4件、2021年3件、2022年1件であった。研究デザインは、質的記述的研究が12件と最も多く、横断的研究が7件、横断的・記述的研究が4件であった。

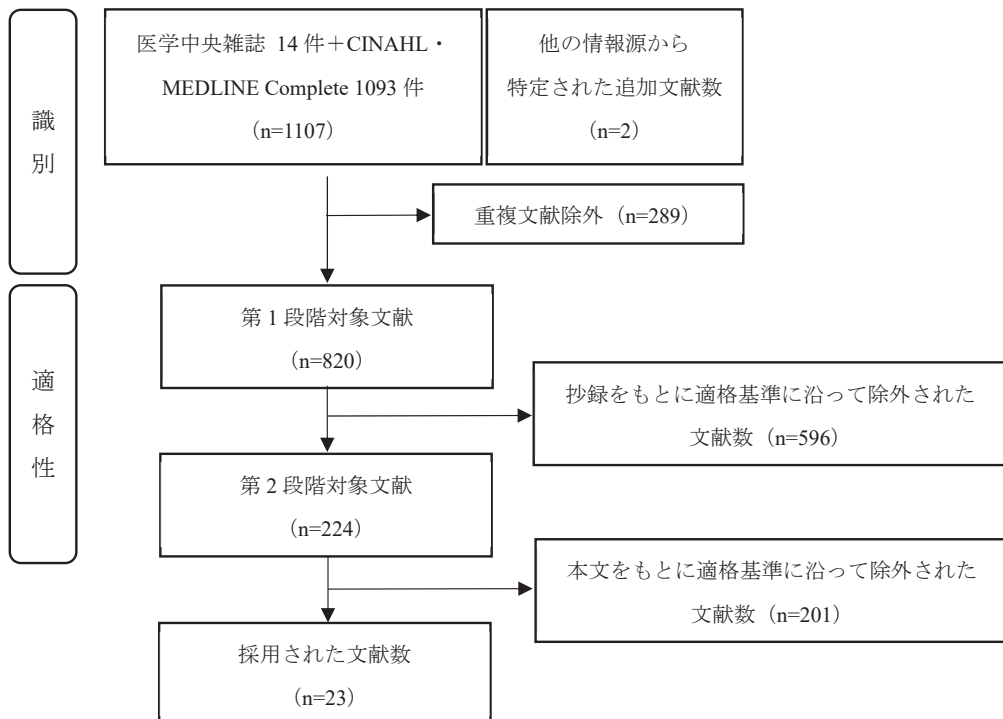


図1. 対象文献選定のフローチャート

表1. 診断後から治療期における成人がん患者の情報ニーズに関する先行研究の概要

番号	著者(出版年) [国名]	研究デザイン	対象者	治療状況
1	Blödt et al. (2018) [ドイツ]	質的記述的	前立腺がん, 乳がん, 結腸直腸がん患者127名	治療中または治療完了後 (診断後5年 以内47.2%, 5-10年38%, 10年以上 28%)
2	Taljaard et al. (2020) [南アフリカ]	質的記述的	局所進行性前立腺がん患者 9名	根治的放射線療法完了後
3	Mazzi et al. (2020) [イタリア]	横断的	stage0-IIIの女性乳がん患者 377名	手術後または術後治療中・後
4	Melhem et al. (2022) [ヨルダン]	横断的	乳がん, 結腸直腸がん患者 335名	治療中または治療完了後
5	Bei et al. (2015) [中国]	横断的	stage0-IVの女性乳がん患者 275名	治療前5.1%, 治療中78.5%, 治療完了後16.4%
6	Kemp et al. (2018) [オーストラリア]	質的記述的	女性進行乳がん患者21名	治療中
7	Ng et al. (2012) [シンガポール]	横断的	stage I -IVの乳がん, 結腸直 腸がん, 婦人科癌535名 (男性19.3%, 女性80.7%)	治療中または治療完了後 (診断後 1年以内73.8%, 1年以上26.2%)
8	Aunan et al. (2021) [ノルウェー]	質的記述的	前立腺がん患者16名	治療完了後
9	Uysal et al. (2018) [トルコ]	横断的 ・記述的	stage I -IVの女性乳がん患者 170名	治療中または治療完了後
10	Valero-Aguilera et al. (2014) [スペイン]	横断的 ・記述的	乳がん患者100名/泌尿器がん 患者169名 (前立腺72.2%, 膀胱19.4%, 腎臓8.3%)	治療中または治療完了後
11	Latifi et al. (2018) [イラン]	質的記述的	女性乳がん患者17名	手術後8-60カ月 (治療完了後または 術後化学療法中)
12	Legese et al. (2021) [エチオピア]	横断的	stage I -IVの女性乳がん患者 375名	治療中または治療完了後 (診断後3カ月-5年)
13	Slavova-Azmanova et al. (2019) [オーストラリア]	質的記述的	肺がん, 乳がん, 前立腺が ん, 結腸直腸がん患者40名 (男性22名, 女性18名)	治療完了後
14	Sakai et al. (2020) [日本]	横断的	女性乳がん患者207名	化学療法完了後5年以内
15	Ussher et al. (2012) [オーストラリア]	横断的 ・記述的	乳がん患者1335名 (女性99.8%)	治療完了後45.5%, 治療中45.6% (診断後3-9年)
16	Hanly et al. (2014) [オーストラリア]	質的記述的	前立腺がん患者21名	治療中または治療完了後5年以内
17	Lithner et al. (2015) [スウェーデン]	質的記述的	手術後の結腸直腸がん患者 16名 (男性10名, 女性6名)	退院後2か月以内
18	Salz et al. (2014) [アメリカ]	横断的 ・記述的	stage I -IIIの結腸直腸がん 患者175名	治療完了後6-24カ月以内
19	Kwok et al. (2015) [オーストラリア]	質的記述的	stage I -IIIの乳がん患者17名	化学療法開始12か月後
20	Kaiser et al. (2021) [ドイツ]	質的記述的	結腸直腸がん患者41名 (男性20名, 女性21名)	診断から4週間-36年 (5年未満20名, 5-10年12名, 10年以上9名)
21	Kwok et al. (2014) [オーストラリア]	質的記述的	中国系オーストラリア人の 女性乳がん患者23名	治療完了後 (診断後6カ月-4年)
22	Hardcastle et al. (2017) [オーストラリア]	質的記述的	結腸直腸がん患者24名 (男性11名, 女性13名)	治療完了後2年以内
23	Rha et al. (2020) [韓国]	横断的	stage I -IVの胃がん患者223名 (男性59.2%, 女性40.8%)	治療中または治療完了後3年以内

## 2. 分析結果

カテゴリーを **【】**、サブカテゴリーを **〔 〕** で示す。情報ニーズの内容として、14のサブカテゴリーに分類および命名し、**【疾患と治療の意味を理解できる情報】** **【疾患や治療による影響を予測できる情報】** **【現状や将来の生活をより良くする対処につながる情報】** の3つのカテゴリーに分類および命名した (表2)。

### 1) 【疾患と治療の意味を理解できる情報】

がんは深刻な病気か、なぜ治療が必要か (Blödt et al., 2018 ; Taljaard et al., 2020), 病期, 進行や再発の可能性 (Mazzi et al., 2020 ; Melhem et al., 2022), どのように病気が進行し転移するのか (Bei et al., 2015) といった〔疾患の病態を理解するための情報〕, あと何年生きることができるのか (Kemp et al., 2018 ; Ng et al., 2012), 同病者で長生きしている人はいるのか (Kemp et al., 2018), 治癒の可能性 (Aunan et al., 2021 ; Bei et al., 2015 ; Uysal et al., 2018 ; Valero-Aguilera et al., 2014), いつまで子どもへの母親役割を果たせるか (Latifi et al., 2018) といった〔残された時間を理解するための情報〕を求めている。また, 対象者の遺伝的素因の有無は不明であったが, 子どもを含む他の家族ががんを発症する可能性やがんになる遺伝的リスクがあるのか (Bei et al., 2018 ; Latifi et al., 2018 ; Legese et al., 2021 ; Ng et al., 2012) といった〔家族のがん発症リスクの情報〕へのニーズが示された。治療に関して, 治療に使われる薬剤がどのように機能するのか, その選択理由, 治療の目的や根拠 (Slavova-Azmanova et al., 2019), 治療が効果的であると確信を持てる情報 (Aunan et al., 2021 ; Taljaard et al., 2020), 治療毎の短期的・長期的なリスクと利益 (Bei et al., 2018 ; Valero-Aguilera et al., 2014) といった〔提示された治療の理解につながる詳細な情報〕を求めている。また, 将来の治療と研究の見通し (Sakai et al., 2020), 現在の治療以外の有効な治療情報 (Uysal et al., 2018) といった〔他の有効な治療選択肢の情報〕も求めている。

### 2) 【疾患や治療による影響を予測できる情報】

治療による身体的魅力の変化, 性欲減退 (Latifi et al., 2018 ; Ussher et al., 2012), 月経の変化, 治療完了後に

妊娠できるか (Latifi et al., 2018) など妊孕性や性功能への影響 (Melhem et al., 2022 ; Taljaard et al., 2020), 腸機能の変化や尿失禁など排泄機能への影響 (Hanly et al., 2014 ; Lithner et al., 2015 ; Salz et al., 2014), 体重の増減への影響 (Aunan et al., 2021 ; Lithner et al., 2015), 治療中だけでなく治療完了後に身体に起きる影響 (Taljaard et al., 2020), また, それらの身体への影響は改善するのか (Latifi et al., 2018 ; Uysal et al., 2018) といった〔短期・長期的な身体的機能への影響が具体的に理解できる情報〕を求めている。また, 治療費だけでなくそれ以外にかかる費用 (Sakai et al., 2020) や, 治療に伴う衰弱により生活が妨げられる可能性 (Latifi et al., 2018), 手術後の痛みや縫合により生活の中で感じる不便さ (Slavova-Azmanova et al., 2019), 薬物療法の副作用により予想される食事の変更や制限 (Kwok et al., 2015 ; Latifi et al., 2018), 睡眠の質, 体力の低下 (Aunan et al., 2021), それらによる入浴や運動, 趣味の継続への影響 (Latifi et al., 2018 ; Mazzi et al., 2020) といった〔疾患と治療による日常生活の制限を予測できる情報〕を求めている。そして, 日常生活の制限に関連して, 治療による日常的な家事の継続への影響 (Latifi et al., 2018 ; Mazzi et al., 2020), 接客による感染リスクなど治療による副作用やストーマが仕事に及ぼす影響 (Kaiser et al., 2021 ; Mazzi et al., 2020), 性功能障害, 排泄障害が家族やパートナーとの関係性 (Aunan et al., 2021 ; Melhem et al., 2022 ; Ussher et al., 2012), 性生活 (Latifi et al., 2018 ; Valero-Aguilera et al., 2014) に及ぼす影響, 実際に同病者はどのように影響を受けているか (Aunan et al., 2021) といった〔社会的役割への影響を理解できる情報〕を求めている。回復にどのくらい時間がかかり, いつ仕事や通常の活動に戻れるか (Lithner et al., 2015 ; Sakai et al., 2020), いつから性生活を再開して良いか (Latifi et al., 2018) といった〔回復までにかかる時間の情報〕も求めている。

### 3) 【現状や将来の生活をより良くする対処につながる情報】

治療に関連して, 普段の習慣に合う制吐剤以外の吐き気の予防, 軽減方法 (Kwok et al., 2014) や副作用を最小限に抑える食品 (Kwok et al., 2015), 感染を防ぐた

表2. 情報ニーズの分類

カテゴリー	サブカテゴリー	抽出された情報ニーズ(文献番号)
疾患と治療の意味を理解できる情報	疾患の病態を理解するための情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ治療を行うべきか(1, 2), がんは深刻な病気か(2, 4)</li> <li>手術後の化学療法をすぐに始めたほうが良い病態か(3)</li> <li>がんの病期と進行・再発の可能性(3, 4)</li> <li>どのように病気が進行し転移するか(5)</li> </ul>
	残された時間を理解するための情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>治癒の可能性はあるかどうか(5, 8, 9, 10)</li> <li>同病者で長生きしている人はいるのか(6)</li> <li>自分自身の状態に対する予後, あと何年生きられるか(6, 7, 10)</li> <li>いつまで子どもへの母親役割を果たせるか(11)</li> </ul>
	家族のがん発症リスクの情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもを含む他の家族ががんを発症する可能性(5, 11, 12)</li> <li>自分の家族ががんになる遺伝的リスク(7, 11, 12)</li> </ul>
	提示された治療の理解につながる詳細な情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>治療の有無で寿命はどのくらい異なるか, 治療は回復への道のりとなるか(1, 11)</li> <li>治療が効果的であると確信を持てる情報(2, 8)</li> <li>治療による不快な副作用・晩期有害事象(4, 8)</li> <li>治療による短期的・長期的なリスクと利益(5, 10)</li> <li>提示された治療が最新で信頼できるものか, 治療に使われる薬剤がどのように機能するのか, 選択された理由に関する詳細な情報, 治療の目的や根拠, 治療を早期にしたほうがよい理由(13)</li> <li>化学療法とは何か, どのように受けるのか, 倦怠感や吐き気, 脱毛など副作用の情報, 出現の可能性(12, 17)</li> </ul>
	他の有効な治療選択肢の情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の治療以外の有効な治療情報(9)</li> <li>将来の治療と研究の見通し(14)</li> </ul>
疾患や治療による影響を予測できる情報	短期・長期的な身体的機能への影響が具体的に理解できる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>治療完了後に身体に何が起きるのか(2)</li> <li>セクシュアリティや妊孕性への影響(2, 4, 11, 15)</li> <li>ホルモン治療の副作用である体重増加(8), 手術による体重への影響(17)</li> <li>治療完了後に合併症が改善するか(9, 11), 月経の変化, 妊娠できるか(9, 11)</li> <li>膣乾燥, ホットフラッシュ, 性欲減退(15), ボディイメージと外見など身体的魅力の変化(4, 10, 11, 15)とそれに関わる同病者の状況(10)</li> <li>疾患や手術を受けることによる尿失禁と性功能への影響(16)</li> <li>倦怠感や腸の症状の持続など予想される問題(17, 18)</li> </ul>
	疾患と治療による日常生活の制限を予測できる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活や人生にどのような影響を与えるか(1, 2, 12), 実際の同病者の状況(1)</li> <li>食事制限はあるのか, 軽い運動とは何か, 入浴は可能か, 日常的な運動や趣味は続けられるか(3, 11)</li> <li>睡眠の質, 体力の低下の可能性(8)</li> <li>治療に伴う衰弱により生活が妨げられる可能性(11)</li> <li>手術後の痛みや縫合により生活の中で感じる不便さ(13)</li> <li>抗がん剤治療の副作用, 性功能障害や尿失禁が日常生活に及ぼす影響(13, 16)</li> <li>治療費だけでなくそれ以外にかかる費用(14)</li> <li>副作用の悪心や食欲不振, 味覚や嗅覚, 口腔感覚の変化による治療中に予想される食事の変更(19)</li> </ul>
	社会的役割への影響を理解できる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>接客による感染リスク, 化学療法後に気分が悪くならず仕事に行けるか(3)</li> <li>日常的な家事の継続(3, 11)</li> <li>家族や仕事, 人間関係への影響(4)</li> <li>性功能障害や排泄障害がパートナーとの関係性, セクシュアルWell-being, 社会的役割に及ぼす影響(8, 15), 実際の同病者の状況(8)</li> <li>性生活への影響(10, 11)</li> <li>ストーマが仕事や長距離移動に及ぼす影響(20)</li> </ul>
	回復までにかかる時間の情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>いつから性生活を再開して良いか(11)</li> <li>回復期間(14)</li> <li>回復にどのくらい時間がかかり, いつ仕事や通常の活動に戻れるか(17)</li> </ul>

表2. 情報ニーズの分類 (続き)

カテゴリー	サブカテゴリー	抽出された情報ニーズ(文献番号)
	治療を乗り越えるための症状管理の情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>術後または化学療法中の自宅でのセルフケア方法(4, 9)</li> <li>治療の副作用である高血圧を合併しない方法, 高血圧をコントロールできる方法, 感染を防ぐためにどうすべきか(11)</li> <li>副作用を予防する方法, 対処方法, 医療者に報告するべき副作用(12)</li> <li>痛みの緩和の方法(14)</li> <li>化学療法の副作用を最小限に抑えるための食品の種類や摂るべき栄養素など, 治療による副作用の状況に合わせた具体的な食事(19)</li> <li>吐き気に対して制吐剤だけでなくどのような自然療法が役に立つか, 吐き気の管理として控えるよう伝えられる食事を摂取する習慣のない人はどうすればよいか(21)</li> <li>化学療法中に自分の体調が改善するためにできること(23)</li> </ul>
	治療の効果を高めるための情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>化学療法中に食べない方がよい食事, 食事制限, 治療効果を高めるために何を食べるべきかという具体的で広い食事の情報(2, 6, 9)</li> <li>運動の必要性(2), 最良の結果を得られる運動方法を含めた生活習慣の改善方法(2, 6)</li> </ul>
現状や将来の生活をより良くする対処につながる情報	生活の中での困りごとに対処するための情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>脱毛時の仕事の継続方法(3)</li> <li>性欲喪失に対処する方法, 効果がある可能性のある性的リハビリテーション(9, 16)</li> <li>パートナー向けの情報, 医療専門家との話し合い方, 避妊, セックスアイド, パートナーとのコミュニケーション, 同性カップルのセクシュアルWell-being(15), パートナーと性行為の代わりに親密さを維持する方法(16)</li> <li>ストーマのある人は同病者の経験を含めた器具交換のときに便利な衣服の種類, 排便コントロールのための食事内容, 悪臭や音への対処方法(20)</li> <li>失禁やコントロールできない排便に対して, どの食事が腸の動きにどのように影響するかを理解し対処する方法(20, 22)</li> </ul>
	回復を促進するための情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>回復を促進するためのライフスタイルの改善方法(7, 18)</li> <li>回復を補助する, 家族と食事を分けずにできる食習慣の改善方法(11), 健康的な食事の選択(10, 11, 21)</li> <li>社会に復帰するための仕事に関連するリハビリテーション(14)</li> <li>何を食べて何を飲むべきか(17), 健康維持のために, 必要な栄養素だけでなく具体的な食品, 個人毎の適切な食事量や食事内容と根拠(22)</li> <li>運動では個人毎の体重目標や適切な身体活動レベル, 具体的なトレーニングや運動方法(17, 22)</li> </ul>
	利用可能な社会制度と支援の情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>働けなくなった時の補償制度(3)</li> <li>正しい情報があるwebサイトなど支援へのアクセス方法, 通院治療のための宿泊費の負担など, 治療費やその他の費用に関する利用可能な制度(6)</li> <li>がん患者が利用できるサービス, がん患者が利用できる支援団体(7)</li> <li>どこで支援を受けられるか, 相談場所(15), 病状, 治療, 経過観察のすべてに関する自分や生活への影響を相談できる場所(23)</li> </ul>

めにどうすべきか, 治療の副作用である高血圧をコントロールする方法 (Latifi et al., 2018) といった〔治療を乗り越えるための症状管理の情報〕を求めていた。また, 化学療法中に食べるべき具体的な食品や食べてはいけない理由, 食事制限 (Kemp et al., 2018 ; Taljaard et al., 2020 ; Uysal et al., 2018) などの食習慣の改善方法, 治療中の運動の必要性 (Taljaard et al., 2020) や最良の結果を得る生活方法 (Kemp et al., 2018) といった〔治療の効果を高めるための情報〕を求めていた。日常生活への影響に関連して, 性欲喪失など性機能障害や排泄障

害がある中でのパートナーとのコミュニケーション, 情報提供の方法 (Hanly et al., 2014 ; Ussher et al., 2012) や医療者との話し合い方 (Ussher et al., 2012), 同病者の実際の対処の状況を含むストーマの器具交換時に便利な衣服の種類や悪臭, 音への対処方法 (Kaiser et al., 2021), 脱毛時の仕事の継続方法 (Mazzi et al., 2020) といった〔生活の中での困りごとに対処するための情報〕を求めていた。また, 健康維持のため何を食べて何を飲むべきか (Lithner et al., 2015) といった個人毎の適切な食事量, 食事内容と根拠 (Hardcastle et al.,

2017 ; Kwok et al., 2014 ; Latifi et al., 2018), 個人毎の体重目標, 適切な身体活動レベル (Hardcastle et al., 2017) と具体的な運動方法 (Hardcastle et al., 2017 ; Lithner et al., 2015), ライフスタイルの改善方法 (Ng et al., 2012 ; Salz et al., 2014), 社会に復帰するための仕事に関連するリハビリテーション (Sakai et al., 2020) といった〔回復を促進するための情報〕へのニーズが示された。さらに, 働けなくなった時 (Mazzi et al., 2020) や金銭的負担の軽減 (Kemp et al., 2018) のために利用可能な制度や正しい情報があるwebサイト (Kemp et al., 2018), がん患者が利用できるサービス, 支援団体 (Ng et al., 2012), セクシュアリティなどがんに関連することを相談できる場所 (Rha et al., 2020 ; Ussher et al., 2012) といった〔利用可能な社会制度と支援の情報〕へのニーズが示された。

## V. 考 察

診断後から治療期における成人がん患者は, 【疾患と治療の意味を理解できる情報】【疾患や治療による影響を予測できる情報】【現状や将来の生活をより良くする対処につながる情報】への情報ニーズがあることが明らかになった。各カテゴリーの特徴として, 【疾患と治療の意味を理解できる情報】では, 患者自身と家族が置かれている状況の理解につながる情報であることが挙げられる。【疾患や治療による影響を予測できる情報】では, 患者自身と家族の生活や人生への影響を認識できること, 具体的なイメージにつながる情報であることが挙げられる。【現状や将来の生活をより良くする対処につながる情報】では, より個別的で具体的な状況や目的に対する実用的な情報であることが挙げられる。また, 共通する特徴として, 個々の疾患や病期, 治療, 身体状況に加えて, 価値観や生活上の習慣, 仕事, 家族・パートナーの状況に応じた情報ニーズを持つことが示された。

2013がん体験者の悩みや負担等に関する実態調査報告書では, がん体験者が求める情報や支援として, 診療情報, 同病者の体験談や交流, 症状や機能障害等に関する情報と具体的な対処方法, 医療費や生活費等の経済的負担がそれぞれの分類で最も高いニーズであることが報告されている (「がんの社会学」に関する研究グループ,

2016年9月)。これらのニーズは本研究における結果と一致しており, 医療者目線ではない, 患者が情報を求める意図と情報ニーズの具体的な内容が示されたといえる。一方で, 今回の対象文献は国外研究がほとんどであった。国内の治療中の乳がん患者を対象とした研究では, 疾患や治療, 副作用の情報への関心が高いことは共通しているが, 社会生活やセルフケア, 性的魅力, 遺伝的リスクに関する情報への関心は低いという報告もある (Azuma et al., 2021)。文化的背景や医療提供内容など様々な要因が情報ニーズに影響することが考えられ, 国内での情報ニーズの具体的な内容の調査が必要であるといえる。

また, Sakai et al. (2021) は, 患者は提供が不十分であると感じている情報ニーズに対して, 医師や看護師はほとんどの項目で支援の提供ができていると認識していることを報告している。その一因として, 患者の背景や現状に基づく個別的で具体的な情報ニーズの認識とそれに伴う情報提供の不足が考えられる。患者の背景と現状とは, 本研究の結果から, 病状や治療, 身体状況の他に価値観や生活上の習慣, 仕事, 家族・パートナーの状況を示すが, これはその人らしさにも置き換えられる。その人らしさとは, 「内在化された個人の根幹となる性質で, 他とは違う個人の独自性を持ち, 終始一貫している個人本来の姿, 他者が認識する人物像であり, 人間としての尊厳が守られた状態」(黒田ら, 2017, p.145) と定義され, 生活上の習慣や他者との関係性, 趣味, 生き方, 事象への情緒的反応から捉えられる (黒田ら, 2017)。つまり, 情報ニーズは病状や治療の他に, その人らしさに基づくものであり, それに沿った情報提供が必要であることが示されたと考える。

その人らしさに基づく情報を提供するために, 看護師はがん患者個々の疾患や病期, 治療, 身体状況に加えて, 価値観や生活上の習慣, 仕事, 家族・パートナーの状況を把握することで, より詳細で個別的な情報ニーズを認識し, 情報提供または適切な情報源につなぐ役割を果たす必要性が示唆された。

## VI. 研究の限界

本研究では, 診断後から治療期における成人がん患者



の情報ニーズについて文献検討を行ったが、患者の身体的・心理的・社会的状況や病期、診断からの期間、治療状況などを考慮した分析には至らず、これらが異なることで情報ニーズが異なることが予測されることから、本研究で得られた結果が十分な妥当性・信頼性を得られていない可能性がある。要因として対象者の属性を限定した先行研究が少ないこと、正確な治療状況が示された先行研究が少ないことが挙げられる。また、本研究は国外

研究が主であったが、文化的背景や医療提供内容が異なることから、具体的な看護支援の検討につなげるために今後国内のがん患者を対象とした病期、治療状況毎の情報ニーズの調査が必要と考える。

## 利益相反

本研究における利益相反は存在しない。

## 文 献

- Anderson, R.A., Clatot, F., Demeestere, I., et al. (2021). Cancer survivorship: Reproductive health outcomes should be included in standard toxicity assessments. *European Journal of Cancer*, 144, 310-316. doi: 10.1016/j.ejca.2020.11.032
- Aunan, S. T., Wallgren, G. C., Hansen, B. S. (2021). The value of information and support; Experiences among patients with prostate cancer. *Journal of Clinical Nursing*, 30(11-12), 1653-1664. doi: 10.1111/jocn.15719
- Azuma, K., Kawaguchi, T., Yamaguchi, T., et al. (2021). Development of Japanese versions of the control preferences scale and information needs questionnaire: Role of decision-making and information needs for Japanese breast cancer patients. *Patient Preference and Adherence*, 15, 1017-1026. doi: 10.2147/PPA.S295383
- Bei, A. W. Y., Lai, M. T., Choi, K. C., et al. (2015). Factors in the prioritization of information needs among Hong Kong Chinese breast cancer patients. *Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing*, 2(3), 176-185. doi: 10.4103/2347-5625.163620
- Blödt, S., Kaiser, M., Adam, Y., et al. (2018). Understanding the role of health information in patients' experiences: Secondary analysis of qualitative narrative interviews with people diagnosed with cancer in Germany, *BMJ Open*. 8(3), 1-9. doi: 10.1136/bmjopen-2017-019576
- Denlinger, C. S., Bersewick, A. M. (2009). The challenges of colorectal cancer survivorship. *Journal of The National Comprehensive Cancer Network*, 7(8), 883-894. doi: 10.6004/jnccn.2009.0058
- El-Shami, K., Oiffinger, K. C., Erb, N. L., et al. (2015). American cancer society colorectal cancer survivorship care guidelines. *A Cancer Journal for Clinicians*, 65(6), 427-455. doi: 10.3322/caac.21286
- 「がんの社会学」に関する研究グループ (2016年9月). 2013年 がん向き合った4,054人の声 — がん体験者の悩みや負担等に関する実態調査 報告書 — 静岡県立静岡がんセンター. <https://www.scchr.jp/book/houkokusho/2013/taikenkoe.html>
- Germeni, E., Schulz, P. J. (2014). Information seeking and avoidance throughout the cancer patient journey: Two sides of the same coin? a synthesis of qualitative studies. *Psycho-Oncology*, 23(12), 1373-1381. doi: 10.1002/pon.3575
- Hanly, N., Mireskandari, S., Juraskova, I. (2014). The struggle towards 'the new normal': A qualitative insight into psychosexual adjustment to prostate cancer. *BMC Urology*, 14(56), 1-10. doi: 10.1186/1471-2490-14-56
- Hardcastle, S. J., Maxwell-Smith, C., Hagger, M. S., et al. (2017). Exploration of information and support needs in relation to health concerns, diet and physical activity in colorectal cancer survivors. *European Journal of Cancer Care*, 27(1), 1-9. doi: 10.1111/ecc.12679

- 橋本君代, 島田美鈴, 中西純子 (2018). 化学放射線療法を完遂した頭頸部がん患者の知覚・認知・対処 — 診断期から治療期に焦点を当てて —. 愛媛県立医療技術大学紀要, 15(1), 1-8.
- Kaiser, M., Adami, S., Lucius-Hoene, G., et al. (2021). Learning-by-doing: The importance of experiential knowledge sharing for meeting the information needs of people with colorectal cancer in Germany – a qualitative study. *BMJ Open*, 11(2), 1-10. doi: 10.1136/bmjopen-2020-038460
- 金正貴美, 野嶋佐由美 (2021). がん患者のComfortに関する情報ニーズの文献レビュー. 高知女子大学看護学会誌, 46(2), 1-12.
- 片岡純, 佐藤まゆみ, 佐藤禮子ほか (2019). 外来通院がん患者が主体性を発揮して行動するために重要と評価する看護実践. 愛知県立大学看護学部紀要, 25, 47-56.
- Kemp, E., Koczwara, B., Butow, P., et al. (2018). Online information and support needs of women with advanced breast cancer: A qualitative analysis. *Supportive Care in Cancer*, 26(10), 3489-3496. doi: 10.1007/s00520-018-4206-1
- 国立研究開発法人国立がん研究センター (2022年11月16日). 最新がん統計. がん情報サービス. [https://ganjoho.jp/reg\\_stat/statistics/stat/summary.html](https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/summary.html)
- 黒田寿美恵, 船橋眞子, 中垣和子 (2017). 看護分野における『その人らしさ』の概念分析 — Rodgersの概念分析法を用いて —. 日本看護研究学会雑誌, 40(2), 141-150. doi:10.15065/jjsnr.20161207005
- Kwok, A., Palermo, C., Boltong, A. (2015). Dietary experiences and support needs of women who gain weight following chemotherapy for breast cancer. *Supportive Care in Cancer*, 23(6), 1561-1568. doi: 10.1007/s00520-014-2496-5
- Kwok, C., White, K. (2014). Perceived information needs and social support of Chinese-Australian breast cancer survivors. *Supportive Care in Cancer*, 22(10), 2651-2659. doi: 10.1007/s00520-014-2252-x
- Latifi, M., Salimi, S., Barahmand, N., et al. (2018). Postmastectomy information needs and information-seeking motives for women with breast cancer. *Advanced Biomedical Research*, 7(75), 1-9. doi: 10.4103/abr.abr\_187\_17
- Legese, B., Addissie, A., Gizaw, M., et al. (2021). Information needs of breast cancer patients attending care at Tikur Anbessa specialized hospital: A descriptive study. *Cancer Management and Research*, 13, 277-286. doi: 10.2147/CMARS.264526
- Lithner, M., Klefsgard, R., Johansson, J., et al. (2015). The significance of information after discharge for colorectal cancer surgery - a qualitative study. *BMC Nursing*, 14(36), 1-8. doi: 10.1186/s12912-015-0086-6
- Magalhães, B., Fernandes, C., Lima, L., et al. (2020). Cancer patients' experiences on self-management of chemotherapy treatment-related symptoms: A systematic review and thematic synthesis. *European Journal of Oncology Nursing*, 49, Article 101837. doi: 10.1016/j.ejon.2020.101837
- Mazzi, M. A., Perlini, C., Deledda, G., et al. (2020). Employment status and information needs of patients with breast cancer: A multicentre cross-sectional study of first oncology consultations. *BMJ Open*, 10(9), 1-11. doi: 10.1136/bmjopen-2020-038543
- Melhem, S. J., Nabhani-Gebara, S., Kayyali, R. (2022). Informational needs and predictors of Jordanian breast and colorectal cancer survivors: A national cross-sectional study. *Supportive Care in Cancer*, 30(8), 6827-6837. doi: 10.1007/s00520-022-07110-6
- Ng, R., Verkooijen, H. M., Ooi, L. L., et al. (2012). Unmet psychosocial needs among cancer patients undergoing ambulatory care in Singapore. *Supportive Care in Cancer*, 20(5), 1049-1056. doi: 10.1007/s00520-011-1181-1
- Recio-Saucedo, A., Gilbert, A. W., Getry, S., et al. (2018). "It's like we don't exist": Tailoring education for young

- women undergoing surgery for early-stage breast cancer. *Oncology Nursing Forum*, 45(2), 165-175. doi: 10.1188/18.ONF.165-175
- Rha, S. Y., Lee, H. J., Lee, J. (2020). Unmet needs in the physical and daily living domain mediates the influence of symptom experience on the quality of life of gastric cancer patients. *Supportive Care in Cancer*, 28(3), 1419-1431. doi: 10.1007/s00520-019-04954-3
- Sakai, H., Umeda, M., Okuyama, H., et al. (2020). Differences in perception of breast cancer treatment between patients, physicians, and nurses and unmet information needs in Japan. *Supportive Care in Cancer*, 28(5), 2331-2338. doi: 10.1007/s00520-019-05029-z
- Salz, T., Baxi, S. S., Blinder, V. S., et al. (2014). Colorectal cancer survivors' needs and preferences for survivorship information. *Journal of Oncology Practice*, 10(4), e277-e282. doi: 10.1200/JOP.2013.001312
- 笹井知子, 雄西智恵美 (2016). 診断から初回治療導入期における肺がん患者の不確かさの管理. *日本がん看護学会誌*, 30(1), 73-81. doi: 10.18906/jjscn.18
- Slavova-Azmanova, N., Newton, J. C., Hohnen, H., et al. (2019). How communication between cancer patients and their specialists affect the quality and cost of cancer care. *Supportive Care in Cancer*, 27(12), 4547-4585. doi: 10.1007/s00520-019-04761-w
- Spittler, C. A., Pallikathayil, L., Bott, M. (2012). Exploration of how women make treatment decisions after a breast cancer diagnosis. *Oncology Nursing Forum*. 39(5), E425-E433. doi: 10.1188/12.ONF.E425-E433
- 多鹿秀継, 川口潤, 池上知子ほか (1992). 社会的認知の情報処理. 多鹿秀継, 川口潤, 池上知子ほか (編), *情報処理の心理学 — 認知心理学入門* (pp. 106-156). 東京都: サイエンス社.
- Taljaard, M., Lovric, G. T., Makenzi, A. M., et al. (2020). Information needs of black prostate cancer patients receiving treatment within the South American public health system. *Oncology and Therapy*, 8(2), 285-298. doi: 10.1007/s40487-020-00125-1
- Tariman, J. D., Doorenbos, A., Schepp, K. G., et al. (2014). Information needs priorities in patients diagnosed with cancer: A systematic review. *Journal of The Advanced Practitioner in Oncology*, 5(2), 115-122.
- Ussher, J. M., Perz, J., Gilbert, E. (2012). Information needs associated with changes to sexual well-being after breast cancer. *Journal of Advanced Nursing*, 69(2), 327-337. doi: 10.1111/j.1365-2648.2012.06010.x
- Uysal, N., Toprak, F. Ü., Kutlutürkan, S., et al. (2018). Symptoms experienced and information needs of women receiving chemotherapy. *Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing*, 5(2), 178-183. doi: 10.4103/apjon.apjon\_69\_17
- Valero-Aguilera, B., Bermúdez-Tamayo, C., García-Gutiérrez, J. F., et al. (2014). Information needs and Internet use in urological and breast cancer patients. *Supportive Care in Cancer*, 22(2), 545-552. doi: 10.1007/s00520-013-2009-y
- 山内英子 (2014). 各職種に求められるがんサバイバーへの関わり. 山内英子, 松岡順治 (編), *実践 がんサバイバーシップ* (pp. 136-140). 東京都: 医学書院.

# Literature Review of the Information Needs of Adult Cancer Patients from Post-Diagnosis through the Treatment Phase

Kokoro Nagashima<sup>1)</sup> Yuko Kawasaki<sup>2)</sup>

## Abstract

[Purpose] Building on prior research conducted in both Japan and abroad, this review summarizes the key information needs of adult patients with colorectal, lung, gastric, breast, or prostate cancer during the diagnosis to treatment phase. The aim is to obtain valuable insights for future nursing care.

[Methods] The databases utilized were Ichushi-Web of Japan, CINAHL (Cumulative Index to Nursing and Allied Health Literature), and MEDLINE Complete. The search spanned a period of 10 years, from 2012 to October 2022, focusing on the keywords “cancer” and “information needs,” along with additional terms such as “colorectal cancer,” “lung cancer,” “gastric cancer,” “breast cancer,” and “prostate cancer.” In total, 23 articles were selected for analysis by combining database and manual searches.

[Results] Studies focusing on breast cancer patients were the most prevalent, with a predominance of qualitative research designs. The information needs of adult cancer patients from diagnosis to the treatment phase were categorized into 14 subcategories and subsequently organized into three main categories, namely: [Information to Understand the Meaning of the Disease and Treatment], [Information to Anticipate the Impact of the Disease and Treatment], and [Information for Coping with Making Improve Current and Future Life].

[Conclusion] Adult cancer patients exhibited information needs that varied according to individual factors such as the type of cancer, disease stage, treatment, physical condition, personal values, lifestyle, work status, and the dynamics within their family or partner relationships. This can be attributed to the unique nature of each patient, suggesting that nurses should recognize the need for more detailed and personalized information as well as play a pivotal role in providing tailored information or facilitating access to appropriate information resources. Furthermore, majority of the studies were conducted outside Japan, suggesting that patient information needs may differ based on cultural backgrounds and healthcare provisions.

Key Words: Information needs, Cancer patients, Literature review

---

1) Cancer Nursing, Master's Program, Graduate School of Nursing Art and Science, University of Hyogo

2) Clinical Nursing, College of Nursing Art and Science, University of Hyogo